

おきぬのめきたいせき 4 沖布目北遺跡（5区）

所在地：坂井市丸岡町舟寄

調査原因：主要地方道丸岡川西線福井港

丸岡インター連絡道路改良工事

調査期間：令和4年4月～7月

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：1,100 m²

時代：縄文時代



位置図（S=1/50,000）

遺跡について 遺跡は、坂井平野を北西に流れる兵庫川の左岸に位置します。坂井平野は、九頭竜川・竹田川・兵庫川などの河川によって形成された沖積平野です。

今年度の調査区は、昨年度調査区（1～4区）の東側にあたり、北側と南側の二箇所に分かれます。

北側調査区では、遺構は調査区西側に偏ります。南側調査区では、遺構は調査区南側に偏ります。

主な遺構 小穴・溝・埋甕^{うめがめ}・集石^{しゅうせき}といった遺構が見つかりました。

小穴は様々な大きさがあります。その多くは性格が不明です。一部は、縄文時代後期の建物の柱穴^{ちゅうけつ}と見られますが、調査区内で明確な建物の並びを確認することはできませんでした。埋甕は4基見つかりました。底に穴が開けられているものもあります。集石は、大小の河原石を一箇所に集めたものです。縄文土器の破片もそのなかに混じていました。

主な遺物 縄文土器・土製品・石器などが出土しました。土器は、縄文時代後期前半のものです。土製品としては、耳飾りがあります。石器は、打製石斧^{たせいせきふ}・磨製石斧^{ませいせきふ}・磨石^{すりいし}などがあります。

まとめ 沖布目北遺跡5区は、西側に隣接する昨年度調査区に比べ、遺構・遺物量ともに少ないことから、縄文時代後期の集落の東側縁辺部にあたる箇所であると判断されます。

（白川 綾）



北側調査区・全景（南から）



北側調査区・北壁土層堆積状況（南西か



集石遺構検出状況（南から）



埋甕検出状況（南から）



埋甕検出状況（東から）



埋甕検出状況（東から）



ピット半裁状況（南から）



南側調査区・全景（北から）